

# 日本語らしさとわかりやすい日本語

小野正樹

筑波大学

**要旨：**言語にはある事態をどのように把握するかと、把握した内容をどのように聴者に伝えるかという2つの機能がある。事態把握の例である。

(1) 国会議事堂前

(2) 国会議事堂

位置関係を相対的に表すか、それとも絶対的に表すかの違いだが、両文の異なりは主観的把握 (1) と客観的把握 (2) の対立とも考えられる。池上嘉彦 (2011) の主張が明確で、主観的把握とは事態の中に認識主体が入り込むものであり、客観的把握は事態を外から見るものとされる。各把握方法がその言語の特徴ともなる。

また、日本語には聴者目当ての多様な表現があり、表現形式により聴者への配慮を示す。こうした表現を、山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010)、小野正樹 (2014) では配慮表現として、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現」と考えている。慣習化について、Leech (1983) が挙げる例である。

(3) Could you open the window?

(4) Are you able to open the window?

(5) 窓を開けてもらえますか。

(3) は聴者への依頼表現となるが、(4) はその理解はできず、日本語では、「窓を開けてもらえますか」という慣習化された授受表現を頻繁に使うことで、聴者への配慮を表している。

こうした「日本語らしさ」に対して、21世紀の現在、非母語話者とも日本語でコミュニケーションする状況や必要性が増えており、日本語らしさから逸脱した「わかりやすい日本語」の必要性も増している。この2つは対立するものではなく、今後両立させていく必要があることを本研究では主張する。

**Abstract:** Language has two functions of expressing how a situation is perceived and how it is communicated to the listener.

(1) The library is in the back of the cafeteria.

(2) The library is in the north of the cafeteria.

The above examples illustrate the difference of whether a position is expressed relatively or absolutely. This difference between the two sentences can also be defined by terms of “subjective construal” and “objective construal”. In accordance with the statement by Yoshihiko Ikegami (2011), subjective construal implies that the recognition subject enters the situation, whereas objective construal is when a situation is observed from an outside. Each construal is a feature of the language.

In the Japanese language, there are expressions which are defined by consideration towards a hearer. Masaki Yamaoka, Isao Makihara and Masaki Ono (2010, 2014) refer to them as

“expressions of consideration” and define them as follows: "In personal communication, it is customary to use language phrases with consideration to keep interpersonal relationships with others as good as possible as much as possible". Below is an example cited in Leech (1983):

(3) Could you open the window?

(4) Are you able to open the window?

(5) Mado wo akete moraemasuka?

(3) is a request to the listener and (4) inquires of an ability to open the window. In the Japanese request of (5), a consideration to the hearer by using benefactive expression is shown. This is an example of ‘sounding Japanese’ expression.

In the 21st century, necessity of an 'easy-to-understand Japanese' is increasing. In this presentation, we insist that the two versions of the Japanese, namely ‘sounding Japanese’ and ‘easy-to-understand Japanese’, are not conflicting. In addition, there is a need to make them compatible in the future.

## 1. はじめに

本研究は、認知言語学とポライトネス研究を通じて、日本語らしさとは何かを考察するものである。はじめに、各言語には“らしさ”があり、(Deutscher 2012) の指摘を紹介したい。

(1) 使うに値する原語がこの世界には4つある。詩歌のためのギリシャ語、戦いのためのラテン語、悲観のためのシリア語、日常会話のためのヘブライ語である。

各言語にはその特徴があり、伝統的言語学的のアプローチとしては“らしさ”を記述するためには統語論的、意味論的、音韻論的以外の研究方向から書かれてきたが、多言語社会のコミュニケーションにおいて各言語の“らしさ”をその社会は認識することは重要であろう。

そこで、日本語らしさとは何かを考えると、2つの方向性があると考えたい。1つは日本語母語話者が有する認知的な特徴で、もう1つは日本語の中に見られる慣習的な表現である。

## 2. 日本語らしさ

日本語の統語論的特徴の一例を挙げると、日本語はある事態を言語化する際に、無生物を主語とすることには制限があることが指摘されてきた (池上嘉彦 1981 他)。

(2) そのニュースが私を悲しませた。

(3) 私はそのニュースに悲しくなった。

「そのニュース」を原因として「私が悲しい」ことを、「そのニュースが私を悲しませた」と使役態で述べるか、「そのニュースに、私は悲しくなった」と自動詞で述べるかという選択である。(2) の使役態は英語の影響もあり、現代日本語においても実例が見られないことはないが、一般的には日本語は自動詞が発達しているので、ニュースという無生物主語の使役構文に不自然さを感じる人が多いと思われる。しかしながら、人間を主語とする表現が発達しているかと言うと、それほど発達はないと、次の文は廣瀬幸生(2016)の挙げる文を参考にしたものである。

- (4) We are approaching Almaty.  
 (5) 私たちはアルマトイに近づいている。  
 (6) We are approaching NABURUZU.  
 (7) \*私たちはナブルーズに近づいている。

「近づく=approach」という表現はもともと空間認識を表す表現で、ある場所に近づくことから、時間を示す表現の際にも英語では使用可能である。しかしながら、日本語では、空間表現が時間表現には使えないというもので、ここに日本語には空間表現と時間表現の認識の違いがあると思われる。

木村英樹 (1996 : 230)の報告に興味深い指摘がある。「石像の右」に立っているのが周先生は A か、B かという問いに対して、日本語では多くの人が A を指すが、中国語では B を指す人が多いというものである。



なぜこのように言語や文化により、空間認識に異なりや特徴があるのか。木村英樹(2014 : 108) では、以下のように論を続けている。

日本語話者の多くは、自らが現実居合わせる空間だけでなく、談話の中だけで言及された-しがたって頭の中だけで思い描かれた-空間についても、あたかも自らがその場に立脚するかのように当事者現場立脚型の視点を取り、話し手基準で対象を位置づける傾向が強い。

当事者現場立脚型について、佐々木勲人の指摘 (2016 : 私信) も併せて紹介すると、日本語では固有名詞に「前」という位置を表す語が駅名になっている。こうした表現は日本語に特有であり、いくつかの大都市を調査したところ、アメリカ・ニューヨーク市内の地下鉄駅名<[http://www.nycsubway.org/wiki/Main\\_Page](http://www.nycsubway.org/wiki/Main_Page)>。イギリス・ロンドン市内の地下鉄<<http://www.raildeliverygroup.com/>>、ドイツ・ベルリン地下鉄<<https://www.s-bahn-berlin.de/pdf/VBB-Liniennetz.pdf>>を見ても、こうした駅名は存在していないが、日本語ではいくつか存在している。

- (8) 「東大前」「国会議事堂前」(東京メトロ駅名)

<<http://www.tokyometro.jp/index.html>>

「大学前」で検索エンジン Google で検索すると約 7,500,000 件に上る(検索日 2017年2月9日 20:50分)。なぜ、「東京大学」「国会議事堂」という駅名をつけないのか、ここに日本語の認知的特徴が

ある。日本語では、ある場所を鳥瞰的に見るのではなく、視点を「東大前」「国会議事堂前」の近くにいる人に置いており、「話し手基準で対象を位置づける」という指摘には肯きたい。

### 3. 空間認知の実験調査

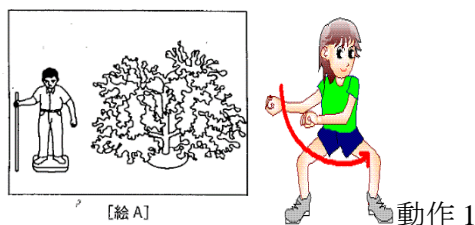
ここで、1つの調査を紹介したい。ある絵と動作を見て、日本語で記述する課題である。

#### 【タスク】

今から見る画像や動作を「右」「左」を使って文を書いて下さい。文型として、以下のものを使って文を作ってください。

(9) N の右／左に N・・・・・・あります。

(10)・・・・・・から・・・・・・に・・・・・・手を動かします。



調査 [絵 A] は井上京子 (1998)から借用したものである。

(11) 「男の人が木の左」系

(12) 「男の人が木の右」系

<表 1>絵 1 に対する左右の判断

	「男の人が木の左」系	「男の人が木の右」系
日本語母語話者	6	3
ロシア語母語話者	3	
カザフ語母語話者		2
ウズベク語母語話者	1	1

(数字は実数)

「男の人は木の左」系の認識は絵を 1 つのフレームとして、その中から見ているわけだが、「男の人は木の右」系の認識は、「男の人の左に木があります」のように、男の人から見ているものである。

次に、動作 1 は筆者が聴者に向かって手を水平上に動かしたものだが、解釈は以下のように分かれた。

(13) 「右から左」系

(14) 「左から右」系

<表 2>動作 1 に対する左右の判断

	右から左	左から右
日本語母語話者	5	4
ロシア語母語話者	3	
カザフ語母語話者	2	
ウズベク語母語話者	1	2

(数字は実数)

「右から左」系の認識は動作を映画を見るスクリーンのように見ているのに対して、「左から右」系の認識は手を動かす動作主の立場で見する方法である。

これは事態把握の方法の異なりで、「男の人が木の左」「右から左」から見る方法は、事態の外から記述するような方法を客観的把握となる。反対に、「男の人が木の右」「左から右」として見る方法は、ある事態をその事態の中に入り込んで言語化する方法で主観的把握とされる。

#### 4. 主観的把握と客観的把握

池上嘉彦 (2011)では、興味深い例が挙げられている。

(15) 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

ノーベル文学賞を受賞した川端康成の『雪国』(1937)の冒頭だが、これを Edward George Seidensticker は “*Snow Country*” (1956)として次のように英語に翻訳している。

(16) “The train came out of the long tunnel into the snow country.”

川端康成の原作では話者の視点が列車の移動と連動しているのに対し、Seidensticker の翻訳では、視点は列車の外にあり、列車の動きを観察描写している。川端康成の言語化が、話者の視点が事態の中に入っている主観的把握、Seidensticker の言語化は、事態の外から描写する客観的把握と考えられる。

次の和歌はどのように考えるべきであろうか。古今和歌集に載っている猿丸太夫という女性歌人の歌である。

(17) 奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の  
声きく時ぞ 秋は悲しき

猿丸太夫 (5 番) 『古今集』 秋上・215

現代語に置き換えれば、以下のようになる。

山の奥です。

秋の季節葉が紅葉しています。

秋になると雄の鹿が雌の鹿に呼びかけています。

その鹿の鳴き声は人間にも秋のセンチメンタルな気持ち呼び起こします。

この歌を詠んだ猿丸太夫はどこにいるのか。「紅葉踏みわけ」という動作主は誰か。猿丸太夫か、それとも鹿か。もし猿丸太夫であるならば、視点が事態の中に入り込んでいるもので主観的把握となり、鹿ならば、猿丸太夫は山を眺めていると考え、客観的把握となる。

このように特定の言語には好まれる表現があるが、これを主観的把握、客観的把握として捉えなすことを提案したい。

## 5. 慣習化

次に慣習化について依頼表現を例に考える (Leech 1983)。

(18) Could you open the window?

(19) Are you able to open the window?

(18) は答えとしては、“Of, course.”や “It’s my pleasure.”のような回答が予想できるのに対し、(19) では “Yes, I am.”あるいは、“No, I am not.”のような解答となろう。(18) は依頼表現となっているのに対して、(19) は能力を問うたものである。

依頼表現という点では、日本語では、「あげる」「もらう」「くれる」と授受表現が発達していて、授受動詞の発達により、依頼表現の慣習化として使用される。

(20) 窓を開けることができますか?

(21) 窓を開けてもらえますか?

(22) 窓を開けてくれますか?

日本語の慣習的表現を紹介するが、こうした行為を実現するための日本語表現が発達していて、それを、山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010)は、聴者に対してスムーズなコミュニケーションとなる表現を「配慮表現」として位置づけた。

ある行為を依頼する際に、日本語ではどのように表現を尽くすのか。次の例は、Leech (1983) が挙げている文を日本語訳したものである (山岡政紀・牧原功・小野正樹 *ibid*)。

(23) このじゃがいもの皮をむいてください。

(24) このじゃがいもの皮をむいてほしいのですが。

(25) このじゃがいもの皮をむいていただけませんか。

(26) ご面倒で恐縮ですが、このじゃがいもの皮をむいていただけないでしょうか。

(27) 誠に失礼ですが、もしお時間が許せば、このじゃがいもの皮をむいていただけると大変有り難いのですが。

イギリス人であることから、主食の「じゃがいもの皮をむく」ことを他者に依頼する際にどのような表現があるか、いくつかヴァリエーションを書いたものである。「じゃがいもの皮をむく」ことを聴者に依頼することは、他者に負担を与えるもので、「じゃがいもの皮をむいてくれれば」、話者に利益がある。行為として考えると、他者に負担をかけることは望ましくありません。自分で負担して、「じゃがいもの皮をむく」べきであろう。

	①ポライトネスの原理	②配慮表現の原理
(A) 気配りの原則	(a)他者の負担を最小限にせよ (b)他者の利益を最大限にせよ	(a)他者の負担が大きいと述べよ (b)他者の利益が小さいと述べよ
(B) 寛大性の原則	(a)自己の利益を最小限にせよ (b)自己の負担を最大限にせよ	(a)自己の利益が大きいと述べよ (b)自己の負担が小さいと述べよ

しかし、他者にどうしても「じゃがいもの皮をむく」ことを依頼しなければならないならば、相手に言葉を尽くすことが必要で。相手に気遣いする表現も複雑化すると考えての提案である。

(23) はポライトネスの原理 (A①-a) 「他者の負担を最小限にせよ」の原則に反する《依頼》となる。しかし、(26)においては、「ご面倒で恐縮ですが」の部分で相手の負担を強調している。これは配慮表現の原理 (A②-a) 「他者の負担が大きいと述べよ」の原則に沿うものである。また、(27) 「大変ありがたい」の部分では自己の利益を強調していて、これは配慮表現の原理 (B②-a) 「自己の利益が大きいと述べよ」の原則に沿うものとなる。これに対して行為者が「お安いご用だよ」と応じたとする。これは配慮表現の原理 (B②-b) 「自己の負担が小さいと述べよ」の原則に沿うものとなる。

(28) 「つまらないものですが」

このように言って贈り物を手渡すのは、配慮表現の原理(A②-b) 「他者の利益が小さいと述べよ」に沿うものとなる。

(29) 「お忙しいところ、わざわざありがとうございます」

相手が多忙かどうかわからなくても定型句のように「お忙しいところ、わざわざありがとうございます」と言うのは、配慮表現の原理(A②-a) 「他者の負担が大きいと述べよ」に沿っている。

では、こうした日本語の聴者に対する配慮の表現をどのように体系化できるだろうか。小野正樹 (2014) では以下の主張を行った。日本語は「すみません」という表現をよく使用する。

(30) 「あっ、すみません」

この表現は謝罪にも、感謝にも使え、日本語辞書『広辞苑第六版』岩波書店(2008)では次のように説明している。

(31) (このままでは終わらない意から) 相手に悪く、自分の気持ちが片づかない。申しわけない。謝罪や依頼の時にいう。

この「すみません」は共起する副詞によって、意味が規定されるが、「ちょっと」と「たいへん」という副詞を合わせてみたい。

(32) 「ちょっと、すみません」

(33) 「たいへん、すみません (でした)」

「ちょっと」では呼びかけとなり、「たいへん」では謝罪となろう。

そこでこの「・・・すみません」「・・・ごめんなさい」類と共起する表現は何かを、KOTONOHA「現代日本書き言葉均衡コーパス」少納言を用いて共起表現を調査し、上位頻度の表現を以下に記す。<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

いろいろ

たいした質問でなく

勝手に

細かくて

しつこくて

ご心配をおかけして

何度も

質問の仕方が悪く

わかりずらくて

たくさん質問して

変なことを

無理に

急に

わかりずらくて

たくさん質問して

変なことを

お忙しいところ



言語表現と行動の関係は、Leech (1983) 以来指摘が多いが、本研究では、鍋島 (2016) では、日本語母語話者の特徴として、1) ネガティブ思考、2) あいまい、3) 共同体的思考、4) 集団的意志決定方式といったキーワードが挙げられており、本研究でも参考にしたい。

- 1) 「ネガティブ思考」とは、船井幸雄によれば、行動を起こす前に否定的な結論を出したり、想像をめぐらせたりして内向的になりやがて自己否定につながってゆくもの。  
<<https://matome.naver.jp/odai/2142681990577082201/2142716415564294903>>
- 2) 「あいまい」は複数意味があり、多義 (polysemy、ambiguity) とファジー (fuzzy)をこの範疇とされる。
- 3) 「共同体」とは、利益、目的を同一にする人々の結合体。(1) 社会学では、アソシエーションに対する用語として、自然発生的に共同体意識、共属感情をもって生活している人々の生活体もしくはその地域社会をさして使用される。
- 4) 集団的意志決定方式とは、集団意思決定 group discussion, 複数の人々が合議により共通の決定を下す事態。

この行動様式を参考に、上記表現を分類する。

1) ネガティブ思考  
たいした質問でなく  
質問の仕方が悪く  
わかりづらくて

2) あいまい  
いろいろ

3) 共同体的思考  
無理に  
変なことを  
ご心配をおかけして

4) 集団的意志決定方式  
急に  
勝手に  
お忙しいところ  
しつこくて

これらは配慮表現として働くが、こうした言葉は翻訳しにくいと思われ、ここに日本語らしさがあるのも事実である。

日本語らしさが、日本語母語話者だけの日本語ならばお互いわかり合えるだろうが、現在多言語・多文化社会を迎えた日本語社会で、このような日本語だけではコミュニケーションが成り立たなくなっているのも事実である。自治体でも学校でも、非母語話者に対する日本語の必要性が高まっている。ここに「わかりやすい日本語」の必要性があり、“World Japanese”という必要性を感じることを主張としたい。

#### 参考文献

- 池上嘉彦 (1981) 『『する』と『なる』の言語学』大修館書店
- 池上嘉彦 (2011) 「日本語と主観性・主体性」澤田治美 (編) 『ひつじ意味論講座 第5巻主観性と主体性』ひつじ書房
- 井上京子 (1998) 「絵 A、B、C」『もし「右」や「左」がなかったら—言語人類学への招待—』ドルフィン・ブックス
- 小野正樹 (2014) 「慣習化された日本語配慮表現の発想」『日本語用論学会第17回大会発表論文集』: 311-314
- 木村英樹 (1996) 『中国語はじめの一步』ちくま新書: 230
- 木村英樹 (2014) 「こと・ころ・ことば—現実をことばにする「視点」—」唐沢かおり・林徹 (編) 『人文知1心と言葉の迷宮』東京大学出版会: 108
- 鍋島弘治朗 (2016) 「日本語学会 2016 年度春季大会シンポジウム報告日本語らしさとわかりやすい日本語」『日本語の研究第12巻4号』日本語学会
- 廣瀬幸生 (2016) 「日英語における時間のメタファと主観性—言語使用の三層モデルからの視点—」小野正樹・李奇楠 (共編) 『言語の主観性—認知とポライトネスの接点—』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門—』明治書院
- Deutscher, Guy (2011) *Through the Language Glass: Why the World Looks Different in Other Languages*, Arrow. (邦訳: 椋田直子訳 (2012) 『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』インターシフト)
- Leech, Geoffrey (1983) *Principles of Pragmatics*, Longman. (邦訳: 池上嘉彦・河上誓作訳 (1987) 『語用論』紀伊国屋書店)

#### データ

- 川端康成 (1937) 『雪国』  
『古今和歌集』猿丸太夫秋上・215  
『広辞苑第六版』岩波書店 (2008)
- Seidensticker, Edward George (1956) “*Snow Country*”
- KOTONOHA 「現代日本書き言葉均衡コーパス」<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>  
画像 動作1 [http://www.geocities.jp/kimika\\_bc/bc7/7-10.htm](http://www.geocities.jp/kimika_bc/bc7/7-10.htm)

## Особенности японского языка. Что делает японский язык японским?

Оно Масаки  
Университет Цукуба, профессор  
(Перевод Шориной Дариягуль)

Сегодня мне бы хотелось поговорить об особенностях японского языка. Недавно, читая книгу Гая Дойчера «Сквозь зеркало языка: почему на других языках мир выглядит иначе», меня заинтересовало следующее высказывание автора:

(1) *«Четыре языка хороши, чтобы использовать их: греческий для песни, римский для битвы, сирийский для плача и еврейский для разговора».*

Конечно, нельзя не согласиться с тем, что упомянутые 4 языка по своему прекрасны. Но мне стало немного обидно, что автор ничего не упомянул о японском языке. Я считаю, что каждый язык имеет свои уникальные особенности.

Итак, в чем же особенности японского языка? Я считаю, что можно выделить 2 основных направления, в которых ярко выражаются эти особенности. Во первых, это когнитивное направление, свойственное носителям японского языка. Во вторых, это направление, которое включает в себя набор устойчивые выражения японского языка. Давайте рассмотрим пример.

(2) *Эта новость меня опечалила.*

(3) *Я опечалился этой новостью.*

В японском языке при описании какого-либо состояния, неодушевленные объекты очень редко используют в качестве подлежащего. Для японского языка, богатого переходными глаголами, пример (2) звучит неестественно. А теперь давайте посмотрим, как часто в качестве подлежащего выступают одушевленными предметами. На самом деле такого рода предложения также не характерны для японского языка.

(4.) *We are approaching Almaty.*

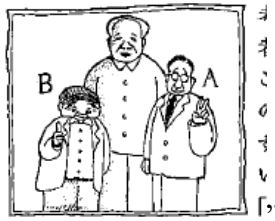
(5.) 私たちはアルマトイに近づいている。(Мы приближаемся к Алматы)

(6.) *We are approaching NAURYZ*

(7.) \*私たちはナブルーズに近づいている。(Мы приближаемся к Наурыз)

Глагол *приближаться* -это глагол, который выражает положение в пространстве. Используя данный глагол, можно выразить то, что мы приближаемся к какому-либо месту, но при этом нельзя использовать выражения времени.

Посмотрим на пример из учебника “Первый шаг к китайскому языку” (Кимура Х. 1996). Как вы понимаете предложение – “Справа от памятника стоит Учитель Сю”? Посмотрите на рисунок. Каков ваш вариант ответа? Вариант А или вариант В? Интересно, что носители японского языка выбирают вариант А, а носители китайского языка указывают на вариант В.

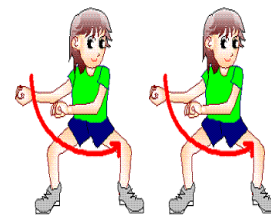
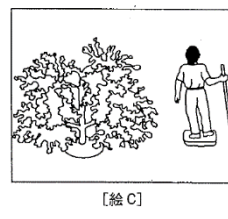
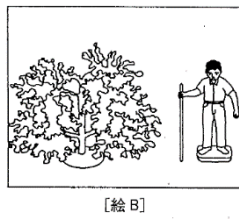
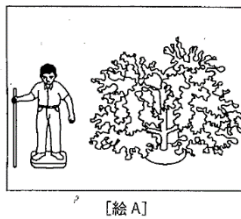


Так почему же восприятие пространства отличается в зависимости от языка и культуры? Это объясняется тем, что большинство носителей японского языка, описывая пространство, указывают не то место, где они находятся в данный момент, а автоматически переносятся в контекст того места, о котором идет речь.

Эта тенденция японского языка очень хорошо прослеживается в названиях местности. В японском языке часто вместе с названием самой местности используется предлог “перед”. И таких примеров очень много. То есть, как говорилось выше, пространство описывается с позиции, что вы уже находитесь в указанном месте. Например, название станции “Перед Токийским Университетом”.

Сейчас, мне бы хотелось провести небольшой эксперимент. Посмотрите на следующие 3 рисунка. Опишите каждый рисунок, указав пространственную связь мужчины и дерева, используя слова направления “слева” и “справа”.

Затем я покажу движение рукой, которое вам также надо будет описать, используя слова направления “слева направо” или “справа налево”.



Движение1 Движение2

Здесь ответы разделились на 2 варианта “мужчина слева от дерева” и “мужчина справа от дерева”. Эти 2 варианта имеют разную когнитивную базу. Вариант “мужчина слева от дерева” это восприятие пространства со стороны. А вариант “мужчина справа от дерева”, это взгляд, который описывает пространство с позиции мужчины.

Этот же принцип работает для описания движений в пространстве, то тут мы тоже видим деление на 2 группы. Группа, выбравшая вариант “справа налево” это те, кто воспринимает движение, как бы смотря фильм. Другая же группа “слева направо” выражает движение, поставив себя на место действующего лица.

Все эти примеры показывают, как по разному воспринимается пространство и движения в пространстве. Вариант “мужчина слева от дерева”, это пример объективного восприятия пространства. А вариант “мужчина справа от дерева”, это способ субъективного восприятия пространства. (Номера примеров в презентации- 9,10,11,12,13,14)

В качестве еще одного примера разного восприятия пространства, позвольте сослаться на книгу Икэгами Е. “Субъективизм японского языка”. Это отрывок из романа лауреата Нобелевской премии Ясунари Кавабата «Снежная страна»

(15) 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

*Наш поезд проехал длинный туннель и мы оказались в снежной стране.*

(дословный перевод)

“Поезд проехал длинный туннель на границе двух провинций и остановился на сигнальной станции. Отсюда начиналась снежная страна” (русская версия перевода в романе «Снежная страна»)

Ниже перевод этого отрывка на английский язык в версии Edward George Seidensticker “Snow Country” (1956).

(16) “The train came out of the long tunnel into the snow country.”

В оригинале романа автор описывает ситуацию “субъективно”, с позиции человека, находящегося в поезде. А в английской версии перевода, пространство воспринимается объективно и описывается со стороны.

Следующий пример также демонстрирует разные варианты интерпретации пространства. Давайте посмотрим стих Сарумару-даю из антологии “Сборник старых и новых песен Японии” (922 г.)

(17) 奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の  
声きく時ぞ 秋は悲しき

猿丸太夫 (5 番) 『古今集』 秋上・215

В теснинах гор  
Сквозь ворох кленовых листьев  
Проходит олень  
Я слышу стонущий голос.  
До чего тогда осень грустна.  
(Перевод: Санович В.С.)

In the mountain depths,  
Treading through the crimson leaves,  
The wandering stag calls.  
When I hear the lonely cry,  
Sad--how sad!--the autumn is.  
(Sarumaru)

Содержание этого стихотворение следующее: в ущельях гор листья деревьев окрасились в осенние цвета. Осенью самцы оленей своим стоном зазывают самок. Этот крик одинокого оленя вызывает у человека сентиментальные эмоции, связанные с наступлением осени.

Если посмотреть на оригинал и его перевод, возникает вопрос, где находится автор? И кто идет по осенней опавшей листве? Сам автор? Или олень? Если это автор, то он является действующим лицом процесса, используя субъективный способ описания пространства. А если это олень, то сам автор наблюдает за ним со стороны, любясь горами. И это уже объективный способ описания пространства.

Перейдем к следующей теме.

(19) “Could you open the window?”

(20) “Are you able to open the window?”

Ответом на просьбу “Could you open the window?” будет “of course” (да, конечно) или “It’s my pleasure” (с удовольствием). А пример (20) это вопрос в потенциальной форме, который предполагает ответы Yes, I am., No, I am not. (Да, могу. Нет, не могу.)

В японском языке при выражении просьбы, часто употребляют глаголы получения (ageru, morau, kureru). Ниже, приведены примеры просьбы открыть окно.

- (21) 窓を開けることができますか? Вы можете открыть окно?
- (22) 窓を開けてもらえますか? Не могли бы вы открыть окно?
- (23) 窓を開けてくれますか? Откройте окно.

Как вы видите, существует множество вариантов выражения просьбы. Данное явление получило название уклончивых и обтекаемых выражений. Фразы, выражающие некое самоустронение от происходящего. Такого рода выражения в японском языке необходимы для более гладкого общения.

Давайте посмотрим какие варианты одной и той же просьбы возможны в японском языке. Это примеры, составленные Geoffrey N. Leech. Поскольку автор-англичанин, в качестве просьбы от выбрал наиболее типичное для англичана действие, связанное с главным ингредиентом английской кухни.

- (24) このじゃがいもの皮をむいてください。  
Пожалуйста, почистите эту картошку.
- (25) このじゃがいもの皮をむいてほしいのですが。  
Мне бы хотелось, чтобы вы почистили эту картошку
- (26) このじゃがいもの皮をむいていただけませんか。  
Я был бы вам очень признателен, если бы вы почистить эту картошку.
- (27) ご面倒で恐縮ですが、このじゃがいもの皮をむいていただけないでしょうか。  
Мне очень неловко причинять вам беспокойство, не могли бы вы почистить эту картошку.
- (28) 誠に失礼ですが、もしお時間が許せば、このじゃがいもの皮をむいていただけると有り難いのですが。

Мне страшно неудобно перед вами. Если вам позволяет время, я был бы очень признателен вам, если бы вы почистили мне эту картошку.

Не имеет значение в чем заключается ваша просьба, любая просьба накладывает некоторое бремя на собеседника. И в случае выполнения вашей просьбы, вы получаете некую выгоду, например, в виде почищенной картошки. Хотя вместо того чтобы доставлять хлопоты собеседнику и просить его, говорящий мог бы сам почистить картошку. Но когда мы вынуждены просить о чем-либо, мы стараемся быть как можно вежливыми.

#### Классификация видов и выражения вежливости

	① Принцип вежливости	② Степень уклончивости
(A) Максима такта	(a) стратегия-ослабить бремя собеседника	(a) использование выражений, акцентирующие высокую степень бремени собеседника
	(b) стратегия-повысить выгоду собеседника	(b) использование выражений, не акцентирующих выгоду собеседника
(B) Максима снисходительности	(a) стратегия-ослабить личную выгоду	(a) использование выражений, которые указывают на высокую степень личной выгоды

	(b) стратегия-повысить личное бремя	(b) использование выражений, которые указывают на низкую степень личного бремени
--	-------------------------------------	--

Давайте, более подробно разберем приведенную классификацию в таблице. Пример (24) противоречит принципу А①-а. А в примере (27) использование выражения *мне очень неловко причинять вам беспокойство*, акцентирует внимание на высокой степени бремени для собеседника и соответствует принципу вежливости А②-а. В примере (28) фраза *я был бы очень признателен вам*, подчеркивает высокую степень личной выгоды и соответствует принципу В②-а.

(29) つまらないものですが

ничего интересного, ничего особенного (дословный перевод)

Данное выражение используется при преподнесении каких-либо подарков. Уменьшая степень выгоды собеседника, в соответствии с принципом А②-b, вы делаете процесс принять подарка более гладким.

(30) お忙しいところ、わざわざありがとうございます

Спасибо, что нашли время, не смотря на вашу занятость

Данное выражение соответствует принципу А②-b.

Мы видим, что в японском языке очень много различных уклончивых выражений, использование которых повышает эффект вежливости. В своём докладе о принципах уклончивых выражений в 2014 году, я попытался классифицировать данную особенность японского языка.

(31), (32) あっ、すみません。

Извините, прошу прощения

В японском языке очень часто используется выражение *sumimasen*. Оно используется в виде извинения, а также при выражении благодарности. Рассмотрим более подробно. Часто фраза *sumimasen* используется с наречиями “немного” и “очень”. При этом наречие “немного” используют для привлечения внимания собеседника, а наречие “очень” - принося извинения.

(33) ちょっと、すみません Извините, можно вас (на минуточку)

(34) たいへん、すみませんでした Очень сильно извиняюсь

Ниже представлены примеры выражений, наиболее часто употребляемых вместе со словом *sumimasen* - *извините*. (Источник-<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>)

いろいろ - за многое

たいした質問でなく - это не очень важный вопрос

勝手に - за то, что не посоветовались с вами

細かくて - за дотошность

しつこくて - за назойливость

ご心配をおかけして - за беспокойство

何度も - за назойливость

質問の仕方が悪く - за запутанный вопрос  
わかりずらくて - за запутанность (содержания)  
たくさん質問して - за то, что задаю так много вопросов  
変なことを - за неуместность  
無理に - за то, что вам пришлось это сделать  
急に - за внезапность

Многие исследователи рассматривают понятие вежливости во взаимосвязи языка и действий, которые осуществляет носитель того или иного языка. Исследования способов выражения вежливости начались с 1983 году. Хотелось бы отметить исследование Набэсима, в котором автор выделяет следующие особенности носителей японского языка:

1) негативный стиль изложения 2) уклончивость 3) взаимовыручка 4) сильно выраженное групповое мышление.

- 1) Негативный стиль изложения подразумевает тенденцию давать негативную оценку своим действиям.
- 2) Уклончивость в японском языке выражается в тенденции избегать прямых высказываний.
- 3) Взаимовыручка это дух товарищества, готовность пожертвовать личными интересами ради общественных.
- 4) Сильно выраженное групповое мышление, помимо сильного командного духа, предполагает совместное принятие решений и действий.

1) негативный стиль изложения

たいした質問でなく - это не очень важный вопрос  
質問の仕方が悪く - я не могу четко сформулировать свой вопрос  
わかりずらくて - (я объясняю) очень запутанно

2) уклончивость

いろいろ - различные

3) взаимовыручка

無理に - простите за то, что вам пришлось это сделать  
変なことを - простите, что прошу вас о такие вещах  
ご心配をおかけして - простите за беспокойство

4) сильно выраженное групповое мышление

急に - простите, что так внезапно  
勝手に - простите, что не посоветовались с вами (и уже все решили)  
お忙しいところ - спасибо, что выделили время  
しつこくて - простите за навязчивость

Все эти выражения очень сложно перевести на другие языки, но всем носителям языка понятны все нюансы этих выражений и это не вызывает особых проблем при общении. Однако, японское общество сегодня уже не такое моноязычное, состав общества меняется и оно все больше пополняется представителями различных языков и культур. И поэтому, я считаю, что возрастает необходимость в японском языке, понятном для всех членов японского общества, необходимость в так называемом «World Japaneses».